

35支部から401人結集

小樽で道建築士会全道大会

【小樽】道建築士会は3日、グランドパーク小樽で第34回道建築士会全道大会(小樽・後志大会)を開いた。道内35支部から401人が結集。課せられた社会的役割をいまい一度認識するとともに、今後のまちづくりに向け建築士として何ができるかについて議論を深めた。(関連記事は15面に)

大会テーマは「北国での快進撃の再生」地域の資源を生かしたまちづくり。例年同様、大会に先立ち分科会を開き活発な意見交換を交わしたほか、大会後の基調講演を通じ、見識を深めた。

また、実行委員長の佐左部洋司小樽支部長は「北海道開拓の玄関口で



第34回道建築士会全道大会(小樽・後志大会) 北国での快進撃の再生～地域の資源を生かしたまちづくり～

上ノ国町湯ノ岱地区天の川水系中ノ沢川で魚道清掃奉仕

NPO法人の北海道魚道研究会

【函館】NPO法人の北海道魚道研究会(戸沼平八理事長)は3日、上ノ国町湯ノ岱地区を流れる天の川水系中ノ沢川で、魚道の清掃ボランティア



92人が魚道環境の保全に取り組んだ。当日は時折小雨が降るあいにくの天候のためか湿度が高く、ちょっとした作業で汗が噴き出る状況。参加

段式の魚道内でスコップを手に懸命に土砂や泥を取り除いていた。そうした中、作業の中心となっていたのは10代の道立漁業研修所の学生18人で、土砂がたぐさんたまっていった下段の魚道では力仕事に汗を流していた。

作業終了後は魚道内に水が流れるよう重機を使って上流部を掘削。参加者全員で魚道に水が流れる様子を見届けていた。

戸沼理事長は「人目の付かないこうした地道な作業は地域の活力となるはず。海と山と川が一体となり、生物多様性が図られるよう今後も自然

あり、いろいろな顔を持ち合わせている小樽で、これからのまちづくり、住まいづくりのヒントを見つけていただきたい」と述べた。

高橋はるみ知事(代読)から来賓からメッセージが寄せられた後、「北国のまちづくりを応援する技

改正建基法など意見交わす

道建築士会 俱知安町内で青年サミット

【小樽】道建築士会青年委員会(神田光英委員長)は2日、俱知安町内で青年サミットを開いた。第34回道建築士会全道大会(後志大会)に合わせた全道から参加した約70人の若手建築士が、改正建築基準法、改正建築士法が実務に与えている影響や改善点などについてワークショップ形式で意見を交わした。

同委員会では改正法の理解を深め、課題を探って改善点を国や道などに提案することを旨とし、これまで会員に対するアンケート調査を実施してきた。2009年3月に開いた全道青年委員会連絡会議でも問題を整理。11月14日に開く全道青年委員会提案内容をまとめるため、今回の青年サミットで意見を集めるこ

とにした。

冒頭であいさつした日本建築士会連合会の木村勇治青年委員長は、政權交代に触れ「新政權は建築基準法の再改正を検討している。脱官僚も掲げているが、建築の実務を知らない政治家だけで建築基準法を改正するのは難しい。われわれ建築士が実務者の立場で意見を発信しなければならぬ」とワークショップの意義を後押しした。

8グループに分かれたワークショップでは、参加者それぞれが日ごろの建築業務で疑問に感じていることなどを話し合った。

話題は建築士試験の受験資格、建築確認の審査期間の長期化、既存不適格建築物の増築計画の緩和規定、業務報酬など多岐にわたった。また、建築基準法での扱いがあいまいなカーポートも取り上げられた。

このうち建築確認では「住宅程度の小さな建築物であれば国家資格者である建築士による設計行為に確認検査業務は不要

とに賛同した。また、建築基準法での扱いがあいまいなカーポートも取り上げられた。

このうち建築確認では「住宅程度の小さな建築物であれば国家資格者である建築士による設計行為に確認検査業務は不要

30カ所で4億円予定

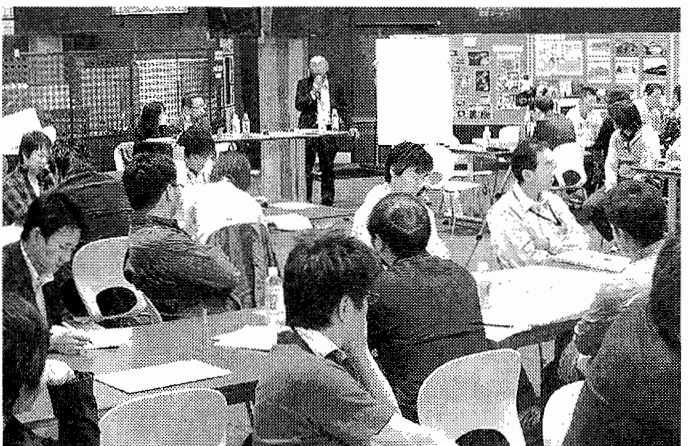
09年度冬期増こう経費措置工事 室蘭土現

【室蘭】室蘭土現は、2009年度冬期増こう経費措置工事として30カ所で4億9000万円を予定している。うち、室蘭環状線局改は10月2日に入札を終了した。10年1月までに入札を行う。前年度と比べ、7カ所、8300万円増えた。

実施概要は次の通り。

(①発注予定時期の概要、入札済みは除く)

- ◆道路系 11カ所、8600万円
- ◇臨時地方道整備局改 4カ所、3400万円
- ▽占冠穂別線ほかわ町① 10月②路盤▽仲洞留留寿都線ほか壮警町①10月②側溝、防護柵補修▽西川東静内停線ほか新ひだか町側溝①10月②排水
- ◇臨時地方道整備局改 1カ所、1200万円▽静内浦河線舗装改良その①11月②バーレー
- ◇臨時地方道整備局改 6カ所、4000万円▽上厚苦小牧線小牧市道路照明①10月②照明灯ツインナトリウム▽占冠穂別線ほかわ町① 10月②路盤①10月②端末防護▽洞爺峠田線洞爺湖路路幅①11月②舗装路盤、側溝▽豊浦京極



「建築士の認知度を上げよう」などさまざまな話題で盛り上がった

札幌圏都市の変更案

道建設部都市計画課5日、道庁別館で2009年度中に見直しする札幌圏都市計画区域の変更案の公聴会を開き、3人、区域区分の変更や建築基準法に定める容積率の緩和などの意見を述べた。一般から2人が参加。はじめに札幌市内在住行政書士が、商業地域近隣商業地域の容積率引き上げを求めた。その後、1975年前後に建設したマンションの容積率に当たっては、現在の容積率が当時に比べて低いため、同じ規模で建設できない」と既存不適格建築物の問題を指摘し、「容積率が引き上げられれば、余剰となった容積率を売却し、建設資金に充てることができると、マンションの建て替え促進になる」と強調した。また建て替は住民だけでなく、固定

悟さん 淳木 船

7月に網走開建の河川・道路担当次長に就任した。「コミュニティを維持し、地域の方々が安心して住むためには、交通ネットワークの整備が必要。地域に必要なきめ細かい道路整備をしたい。川の流域には農地が広がっている。農業基盤を支える意味での治水事業の役割も大きい」と抱負を力強く。

網走での勤務は初めて。「津軽平野で育ち、石狩、空知での仕事が多く、水田を皮切りに旭川開建治水

ひと'09

をみる機会が多かった。網走は畑作、丘陵地帯で広さを感じ、すこく新鮮。同じ北海道にいなから、違う風景が展開している。閉鎖状態となったが、新しいまちづくりを住民と議論したり、温泉地の景観を損なわない砂防施設のデザインを決めるため、各地を視察した。たった2年間の勤務だが、濃い時代だった」と振り返る。

2002年には、札幌開建河川道路事務所長となり、初めて道路事業に携わった。地域づくりに直結している面白さがあった。楽しい経験させてもらった

地域に必要なきめ細かい道路整備を



